

第3回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議 議事要旨

日時：平成28年9月23日（金）13:15～14:50

場所：富山市役所 801 会議室

出席委員：（順不同）

| | |
|-------|---------------------|
| 宮田伸朗 | 富山国際学園学事顧問（議長） |
| 鶴殿 裕 | 株式会社日本政策投資銀行富山事務所所長 |
| 太田勝久 | 富山公共職業安定所所長 |
| 神川康子 | 富山大学理事・副学長 |
| 桑山比呂志 | 連合富山・富山地域協議会議長 |
| 舘 良一 | 株式会社シー・エー・ピー代表取締役社長 |
| 長尾治明 | 富山国際大学現代社会学部教授 |
| 中村和之 | 富山大学経済学部学部長 |
| 松井竹史 | 富山市薬業推進協会会長 |

要旨のポイント

- ・ 人口の社会増の維持と出生率の向上という大きな目標に向け、4つの基本目標とそれに対応する主な施策を定めているが、途中経過を検証しながら、基本目標の達成に直接寄与しない施策は削除するという考え方もある
- ・ 地方創生を進めるため、Uターンの促進が重要であるが、そのためには総合的な取り組みが求められ、ハローワークとしても是非協力して取り組んでいきたい
- ・ 介護の現場は、重労働かつ人手不足であるため、ロボット等の導入に対する補助があればよい
- ・ 農業の人材育成も大事であるが、農業は面白いものだ伝える仕組みも必要
- ・ 総合戦略の取組状況や目標値は、地域を巻き込む視点からも、市民に開示していくことが望ましい
- ・ 人口の社会増について、本市への転入元・転出先を分析し、社会増に向けた効果的なアプローチを選択することが必要である
- ・ ライフラインに関する情報をワンストップで提供する「ライフライン共通プラットフォーム」については、多様な機関との連携が必要となるので、富山市がしっかりイニシアティブをとって取り組んでほしい
- ・ 地域包括ケアシステムの構築のためには薬剤師に求められる役割も大きいことから、協議の段階から薬剤師も議論に加えてもらいたい

議事内容：

1. 開会

2. 資料説明

○資料1・2にもとづき富山市まち・ひと・しごと総合戦略の改訂（案）、資料3・4にもとづき富山市まち・ひと・しごと総合戦略の取組状況、資料5にもとづき地方創生推進交付金を活用した事業、資料6にもとづき地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を活用した事業の取組状況について、事務局より説明した。

3. 意見交換

(1) 富山市まち・ひと・しごと総合戦略の改訂（案）について

(2) 富山市まち・ひと・しごと総合戦略の取組状況について

委員

- ・（仮称）まちなか総合ケアセンターについて、医療介護連携室、地域連携室を検討する上で、各種組織といろいろと話し合いをしたと思うが、薬剤師は地域包括ケアシステムの構築のために非常に役割が大きいことから、薬剤師もその協議の場に入れてもらいたい。

事務局

- （仮称）まちなか総合ケアセンターについては、現在関係機関と協議を進めている。地域包括ケアシステムを構築していく上で、医療介護連携は大変重要であり、薬剤師の方々の役割も重要になってくるので、医療介護連携のさまざまな会合等に薬剤師会の方にも声掛けをし、参加していただいている。

委員

- ・資料1 P10「エ. サービス産業の活性化」の中で「IT・ロボットの導入を促進し、労働生産性を高める中で、魅力ある就業の場とします」とあるが、去年の今頃はロボットに関してそれほど関心がなかった。しかし、最近では、トヨタ自動車が介護ロボットに参入し、また、富山では「パロ」という介護ロボットが導入されている。介護の現場は重労働で、成り手が少なく人手不足であるため、ロボット導入に対する支援を考えてもらえないのか。例えば、施設にロボットを導入する際の補助金等の創設は可能か。

事務局

- 現在、特定の業種の事業者に対する補助金等はないが、今後の動向を注視しながら、一つの課題として考えていかなければいけない。

委員

- ・福祉機器の開発に対する製造業への支援と介護の現場等における負担を軽減するような機器や設備の導入の相乗効果によって、サービス産業の活性化にもつながっていく。

委員

- ・資料3-②P4「オープンデータの活用」について、このデータはどこで公開されているのか。

事務局

- 富山市ホームページ内にオープンデータの専用サイトを開設している。その中で、育児関連施設、スポーツ・文化施設の情報や道路路線図等について公開している。

委員

- ・ 富山市のデータのみで構成されているのか。県や国のデータも掲載しているのか。

事務局

- 富山市が持っているデータ資産のみを掲載している。新たに導入するライフライン共通プラットフォームについては、国土交通省河川国道事務所や日本海ガス等ライフライン事業者と情報を共有し、身近な工事情報等も含め、共通プラットフォーム内に情報を蓄積しオープンデータ化する。将来的にはサービス内容を更に充実させていく予定である。

委員

- ・ 薬の分野では、薬の効能でなく別の効能に使われたデータを薬用化する動きがある。それに類似するような使い方ができれば富山の薬産業の発展に繋がる。国のレベルなのかもしれないが。

委員

- ・ 総合戦略の取組状況や目標値は、市のホームページ等で公開されているのか。地域を巻き込むという視点が重要なので、市民の方に対してもわかりやすい形で、現時点でどこまで到達しているのか等についての情報開示が行われるべきではないか。例えば、地域包括ケア拠点施設が中心市街地に開設し、専門学校等に学生が 800 人近く集まる。これらの学生をビジネスのマーケットとすることも可能であると思う。

事務局

- 総合戦略本体は公開しているが、進捗状況等の開示は今のところ行っていない。

委員

- ・ 市民の視点も重要であるため、多様な視点から効果を検証していくことが望ましい。

事務局

- 総合戦略の広がりを出していくために、主な施策等の進捗状況について、どのように市民の皆様と共有できるか、検討していきたい。

委員

- ・ 戦略期間である平成 31 年まで、あるいはその先のことを考えると、今後も人口減少は続くので、数値量の観点から目標値を作っているものは、これからが目標値の達成に向けた正念場になると思う。人口の社会増については、県内の市町村で奪い合っても意味がないので、転入元・転出先を分析し、社会増に向けたアプローチをしっかりと考えていかなければいけない。
- ・ 公共施設の一元化、拠点化が必要とされている。地域包括ケア拠点施設を作ったあと、従来からある他の施設はどのようにマネジメントしていくべきなのか等も合わせて、次の段階として考えていかなければいけない。
- ・ ライフライン共通プラットフォームについては、市、県、国、民間事業者が密接に関係し合うので、富山市がしっかりとイニシアティブをとって取り組んでもらいたい。
- ・ 給付型奨学金、就学支援について、我々の学部には昼働いて夜学ぶ、夜間主コースもある。このような場も活用していければ良い。

事務局

- ライフライン共通プラットフォームについては、例えば道路管理者は国、県、市それぞれであり、これまでの協議を経て、ようやく事業の進め方を説明している段階である。民間事業者に

についても、企業秘密の部分もあるが、プラットフォーム化により同じ道路等を何度も掘り起こすことなく、工事を一元的に行うことが可能になる。また、自分の子供の通学路の近くで工事がいつ頃予定される等といった住民からの情報も含めようと考えている。少し時間はかかるが、市がしっかりとイニシアティブをとって総合的に取り組んでいきたい。

- ▶ 社会増については、どういったブロックで考えていくか、また、産業振興、中間人口との絡み等も含めて総合的に検討していきたい。
- ▶ 人口動態については、「人口ビジョン」P8に2013年の数値ではあるが、転入元・転出先を掲載している。今後もそれらを含め検討していかなければならない。

議長

- ・ 地域包括ケア拠点施設により800人規模の学生がストックされることは、人口流出防止の観点からも有効と考えられる。

委員

- ・ 「農業に関わる人材育成の支援」について、農業サポーターと農業者とのマッチングとあるが、農業サポーターとはどういう位置づけなのか。

事務局

- ▶ 農業サポーターについては、登録制でリタイアされた方あるいは全く農業を経験されていない方を対象とし、とやま楽農学園において農業の研修を行う。農業は高齢者中心で担い手不足であり、既存の農業者のニーズと農業に従事したい人のニーズを上手くマッチングさせることが、この事業の趣旨である。新規に年間約10件ずつ増えており、今年度は8月末時点で新たに9件マッチングしている。

委員

- ・ 農業の人材育成も重要であるが、農業は面白いものだと伝える仕組みも必要ではないか。例えば、知人で地域の皆様と連携しながら豚を飼育している方がいる。そういった方と、新たに農業に取り組みたい方をマッチングし、6次産業化を更に進めていくような仕組みも構築してほしい。

事務局

- ・ ニーズがどれほどあるかをまずは把握しなければならないが、今後の検討材料としたい。

議長

- ・ 障害をもった方々の就労支援も農業の担い手確保の一つの策である。時間はかかるが、相乗効果で多面的な方向から取り組んでいかなければいけない。

委員

- ・ 総合戦略は自治体間の競争でもあると思うので、少なくともこの場ではエゴイスティックに富山市のことだけを考えればいいと思う。
- ・ 出生率のみならず出生数を見ていくことも大事である。人口の社会増の傾向を維持し、市民の希望出生率である1.92を目指すための基本目標1~4かと思うので、途中経過の中で基本目標と直接リンクしない施策は削除しても良いのではないかと思う。
- ・ 資料3-②P5「富山市型ヘルスケア産業の創出支援」についてはどのような検討状況なのか。

事務局

- ▶ ヘルスツーリズムに関するプロジェクトチームを市内で組織し検討している。富山市の観光を

考えた際、新たなキーワードとして「健康」を打ち出し、自然や薬を活かしたヘルスツーリズムとして展開できないかと考えている。早々に結果を出すことは難しいことから、現在その滞在型観光等のコンテンツとなりうる、地域資源の調査を行っている。

➤

(3) 国の地方創生関連の交付金を活用した事業について

①地方創生推進交付金を活用した事業について

②地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）を活用した事業の取組状況について

委員

- ・ 求職者は約3年間減少傾向にあるが、いまだに底を打たない状況である。求人については、北陸新幹線の開業効果で増加し、かなりの人手不足の状況にある。このような状況では、学生等のUターンを促進することが重要になる。ほとんどの施策はUターンに効果があるが、逆に言えば、総合的な取り組みが必要である。ハローワークとしても、市のUターン施策に対し、ぜひ協力してやっていきたい。

委員

- ・ 戦略の中に「地（知）の拠点大学との連携強化」があるが、具体的な施策がない。大学と市の商工労働部との連携による雇用創出、就職支援等、この分野についての具体的な事業をより一層推進できないものか。
- ・ どのような企業があるか知らない学生が多いので、企業から学生に対して積極的に事業内容等の紹介を行ってほしい。
- ・ 就職も一つの手段であるが、起業するという視点も学生に持たせる施策を目指してほしい。学生が事業者として成長していけば、新たな雇用が生まれる。

事務局

- 富山大学、富山国際大学とは包括協定を結び、定期的に協議の場を設けさせていただいている。そうした場を活用し、具体的な事業に繋げていくとともに、学生への企業の事業内容の紹介等も含めて、行っていきたい。

(4) 事務局より事務連絡

- ・ 意見を踏まえて総合戦略を改訂する。
- ・ 今後も総合戦略の目標達成に向け、着実に各事業を推進する。

以上